

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 鬼怒 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第3学年

4 本校の参加状況

- | | | | | |
|---|-----|------|-----|------|
| ① | 国語A | 246人 | 国語B | 246人 |
| ② | 数学A | 246人 | 数学B | 246人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・ 国語A(知識)の平均正答率は全国平均・宇都宮市平均よりもやや低い。特に、短答式の正答率が低い。
- ・ 国語B(活用)の平均正答率は全国平均・宇都宮市平均よりもやや低い。特に、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の正答率が低い。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	4	75.8	79.2	77.6
	書くこと	4	63.7	67.1	64.5
	読むこと	6	78.1	82.3	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	76.2	78.2	77.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	75.8	79.2	77.6
	書く能力	4	63.7	67.1	64.5
	読む能力	6	78.1	82.3	80.0
	言語についての知識・理解・技能	18	76.2	78.2	77.5
問題形式	選択式	21	77.0	79.2	77.3
	短答式	11	70.9	74.9	74.7
	記述式	0			

【国語B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	3	59.3	63.3	62.7
	読むこと	8	65.7	69.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	60.2	63.0	64.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	59.3	63.3	62.7
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	3	59.3	63.3	62.7
	読む能力	8	65.7	69.9	67.8
	言語についての知識・理解・技能	1	60.2	63.0	64.6
問題形式	選択式	5	66.2	70.4	68.2
	短答式	1	76.4	80.9	77.5
	記述式	3	59.3	63.3	62.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は75.8%で、全国平均より1.8ポイント低い。

【書くこと】

- A 領域の平均正答率は63.7%で、全国平均より0.8ポイント低い。
- B 領域の平均正答率は65.7%で、全国平均より2.1ポイント低い。

【読むこと】

- A 領域の平均正答率は78.1%で、全国平均より1.9ポイント低い。
- B 領域の平均正答率は65.7%で、全国平均より2.1ポイント低い。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- A 事項の平均正答率は76.2%で、全国平均より1.3ポイント低い。
- B 事項の平均正答率は60.2%で、全国平均より4.4ポイント低い。

【その他】

- B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率は59.3%で、全国平均より3.4ポイント低く、自分の考えを的確に説明することに課題がある。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 国語に関する多くの質問で、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて高い。
- 特に「読書は好き」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と回答している生徒の割合は、全国平均と比べて高い。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答している生徒の割合は、全国平均と比べて低い。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・ 目的や場に応じた話ができるように意識づけをしていきたい。また、場に応じた会話の仕方を学ばせたい。

【書くこと】

- ・ 目的に応じて伝えたい事柄を明確にし、必要な情報を文章の展開に即して適切に取り上げて書くことができるよう、繰り返し取り組む場を設け、書く習慣を身に付けさせる。

【読むこと】

- ・ 文章の内容を的確に理解する力を育むために、段落ごとの内容や、段落相互の関係を正しく押さえられるような指導を工夫する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・ 文脈に即して正しく漢字を書く力を身に付けさせるために、読みや意味、用法、字形、画数、筆順などの基本的な事項を確実に指導する。その上で、繰り返し学習をさせて定着を図る。

【その他】

- ・ 実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けさせるために、幅広い読書を促し、量だけでなく質の向上を図りたい。

2 数学

全体的な傾向

- ・ 数学A(知識)の平均正答率は全国平均・宇都宮市平均よりもやや低い。特に、数と式の領域の正答率が低い。
- ・ 数学B(活用)の平均正答率は全国平均・宇都宮市平均よりもやや低い。特に、関数の領域の正答率が低い。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	11	69.5	73.5	72.7
	図形	12	64.0	66.4	64.6
	関数	9	56.4	60.0	58.7
	資料の活用	4	43.7	48.3	46.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	17	65.1	68.7	67.9
	数量や図形などについての 知識・理解	19	58.3	61.6	59.8
問題形式	選択式	18	60.5	63.6	61.8
	短答式	18	62.6	66.3	65.5
	記述式	0			

【数学B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と式	5	37.2	43.0	41.7
	図形	2	43.7	45.1	44.8
	関数	6	35.4	40.1	40.0
	資料の活用	3	40.4	43.8	42.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	30.7	35.0	34.8
	数学的な技能	2	47.4	55.7	53.1
	数量や図形などについての 知識・理解	2	72.0	72.8	70.7
問題形式	選択式	4	41.0	43.2	43.3
	短答式	5	52.8	57.8	55.8
	記述式	7	25.6	30.8	30.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と式】

- A 領域の平均正答率は69.5%で、全国平均より3.2ポイント低い。
- B 領域の平均正答率は37.2%で、全国平均より4.5ポイント低い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は64.0%で、全国平均より0.6ポイント低い。
- B 領域の平均正答率は43.7%で、全国平均より1.1ポイント低い。

【関数】

- A 領域の平均正答率は56.4%で、全国平均より2.3ポイント低い。
- B 領域の平均正答率は35.4%で、全国平均より4.6ポイント低い。

【資料の活用】

- A 領域の平均正答率は43.7%で、全国平均より3.1ポイント低い。
- B 領域の平均正答率は40.4%で、全国平均より1.8ポイント低い。

【その他】

- B 問題形式別に見ると、記述式の設問の平均正答率は25.6%で、選択式・短答式の正答率よりも低い。自分の考えを説明することに課題がある。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

＜傾向＞

- 「数学の授業の内容はよくわかる」と回答している生徒の割合は、全国平均と比べて低い。
- 反面「数学ができるようになりたい」と回答している生徒の割合は、全国平均と比べて高い。向上意欲はもっている。

指導改善のポイント

【数と式】

- ・ 基本的な計算の確実な定着を図るために、反復練習の充実を図るとともに、つまずきの解消を目指した活動の充実を図る。※1

【図形】

- ・ 証明の必要性和意味を理解できるようにするために、証明する前に、条件に合う図を生徒が自らかいて問題を把握する活動を取り入れるなど、同じ条件を満たす図では一つの証明が例外なく成り立つことを実感できるように、指導を工夫する。

【関数】

- ・ 関数の意味を理解し、 y が x の関数であるかを判断することができるようにするために、様々な事象の中の二つの数量 x 、 y について、具体的な数を x にあてはめて、 y が一意に決まるかどうかを確かめる活動の充実を図る。

【資料の活用】

- ・ 資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、日常生活や社会の問題を取り上げて、必要な資料を収集して分類整理し、資料の傾向を捉えて説明し合う学習を取り入れる。

【その他】

- ・ 自分の考えを説明することができるようにするために、図、式、言葉などを関連付けて考えを記述する活動やノート指導の充実を図る。

3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

【学習時間等】

- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）で1日当たり2時間以上、休みの日に1日当たり3時間以上勉強している生徒が、全国平均と比べて5～6ポイント低い。
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている生徒が44.7%で全国平均と比べてほぼ同じだが、栃木県平均より低い。
- 家で、学校の宿題をしている生徒が85.4%で、全国平均、栃木県平均より低い。
- 家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上、1時間以上、30分以上読書をしている生徒の割合が、それぞれ全国平均と比べて高い。

【基本的生活習慣】

- 朝食を毎日食べている生徒は93.1%で全国平均と比べてほぼ同じだが、栃木県平均より低い。

【家庭でのコミュニケーション等】

- 家の人と普段（月～金曜日）、夕食を一緒に食べている生徒は87.4%で全国平均と比べて高い。
- 家の人と学校での出来事について話をしている生徒は73.2%で全国平均と比べて高い。

【地域との関わり等】

- 今住んでいる地域の行事に参加している生徒が27.6%で全国平均と比べて低い。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒が32.1%で全国平均と比べて高い。

【自尊意識】

- 自分には、よいところがあると思う生徒が82.5%で全国平均と比べて高い。
- 自分の行動や発言に自信を持っている生徒が52.4%で全国平均と比べて高い。

【規範意識】

- 学校の規則を守っている生徒が91.1%で全国平均と比べてわずかに低い。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと答えた生徒が96.8%で全国平均と比べて高い。